

会長就任のご挨拶

林 哲也



この度、会員の皆様のご推挙により、伝統ある粉体粉末冶金協会の会長という大役を仰せつかり、平成30年度から本協会会長に就任いたしました。本協会とは1983年秋の学会で研究成果を発表させていただいたときからのご縁になりますが、永年、企業人として粉末冶金の研究開発や事業としての「ものづくり」に携わってきた者として身に余る光栄に存じますと共に責任の重大さに身の引き締まる思いであります。この重責を果たすため、前会長をはじめ副会長、理事、監事、事務局の皆様のご支援を頂戴しながら、協会発展のため精一杯取り組んで参る所存でございます。会員の皆様にはご協力、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

当協会は奇しくも私の生まれ年と同じ1958年に創立、昨年は川崎亮前会長のもと創立60周年の記念式典と記念国際会議を開催し大成功を取めました。この60年間、当協会の基本理念の一つである「学界と産業界の情報連絡を重視し基礎的研究から生じる独創的な成果を産業に生かす」ことを目的として、わが国の産業の発展にも大きく貢献してまいりました。これまでの諸先輩のご努力により、粉末冶金は素形材産業の中で必要不可欠な工法と認知されておりますが、今後もその特性を活かした更なる成長が期待されている技術であります。

現在の経済情勢は、「アベノミクス景気」の拡大局面が続いており、今後も世界景気の回復を背景にした輸出増に加え、人手不足対応のための投資や東京オリンピックを控えたインフラ建設などで堅調に推移し、本年末には戦後最長である「いざなぎ景気」の73カ月連続に並ぶ可能性が大きい、と好調が伝えられています。

しかし、米中貿易摩擦の行方、朝鮮半島・中東情勢等の地政学リスク、トランプ政権の政策行き詰まりなどによる金融市場の混乱で世界経済が減速すれば、景気が下振れるリスクも懸念されます。

その中で、粉末冶金の主力市場である自動車業界は、電動化やシェアリングといったクルマの新たなテクノロジーや使われ方など「100年に1度という大変革」の動きが加速しており、個々の企業ベースでは、数年先の経営の健全性を左右するような舵取りを迫られる時期を迎えていると言えます。

このように我々を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、学界と産業界が一丸となって競争力向上に取り組むことが、ますます重要となってまいります。当協会は日本粉末冶金工業会との連携による工業会賞受賞記念特別セッションや国際会議の開催など、産業界と連携した活動を多く進めておりますので、今後更にこの関係を深め、レベルアップを目指したいと考えております。

今年度は、9月に「WORLD PM2018 Beijing」（北京粉末冶金国際会議）があり、来年2月に「APMA2019」（第5回アジア粉末冶金国際会議）が初めてインドのプネで開催されます。日本粉末冶金工業会をはじめ、関連工業会やアジア地区の粉末冶金工業の発展を目的として設立したアジア粉末冶金連合（APMA）の活動にも積極参加してまいります。

また、自動車をはじめとした需要業界の変化に追従していくためには、一層高度化・多様化する粉末冶金製品へのニーズに応えていかなければなりません。当協会では今年度も春秋の講演大会、講演特集号協会誌の発行、研究分科会活動の活性化や若手研究者の支援等の協会活動の充実を図っていくと共に、層の厚い欧米諸国との競争や追いつけてくるアジア勢に対抗していくため、産学の連携を一層強化する仕組みを作り、国際競争力の向上、国内外への新技術の発信などを積極的に進め、これらがさらに技術開発に寄与し、独創的な技術が生まれることを期待しております。

これらの活動を通じて、本協会が皆様方の学術活動や産業界の発展に貢献出来るよう全力を尽くして参りますので、会員の皆様の絶大なるご支援を重ねてお願い申し上げます。